

26年5月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 4月20日～ 26年5月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
5月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 26/5月 | 6月 | 7月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 仕入動向 | 国産材製材品 | △ 6.3 | △ 6.3 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 12.5 | △ 6.3 | △ 12.5 |
| | 構造用集成材 | 7.1 | 0.0 | 0.0 |
| 消費動向 | 国産材製材品 | 6.3 | 0.0 | △ 6.3 |
| | 外材製材品 | 0.0 | 6.3 | 0.0 |
| | 構造用集成材 | 7.1 | 7.1 | 0.0 |
| 在庫動向 | 国産材製材品 | △ 12.5 | △ 18.8 | △ 18.8 |
| | 外材製材品 | △ 12.5 | △ 18.8 | △ 12.5 |
| | 構造用集成材 | 0.0 | △ 14.3 | △ 14.3 |

国産材製材品の仕入れは5,6月のやや減少が7月には横ばいに、外材製材品は減少傾向で推移、集成材は5月のやや増加が6,7月は横ばいに。

国産材製材品の消費は5月のやや増が7月に向けやや減に、外材製材品は5月の横ばいが6月のやや増加を経て7月には横ばいに、集成材は5,6月のやや増加が7月には横ばいに。
国産材及び外材製材品の在庫は減少傾向で推移、集成材は5月の横ばいが6,7月には減少

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

| 品目 | 26/5月 | 6月 | 7月 |
|-----|-------|-------|-----|
| 受注 | 18.8 | 12.5 | 6.3 |
| 加工 | 18.8 | 18.8 | 0.0 |
| 受注残 | 0.0 | △ 6.3 | 0.0 |

受注は増加傾向で推移。

加工は5,6月の増加が7月には横ばいに。
受注残は5月の横ばいが6月のやや減を経て7月には横ばいに。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き) ・仕入れは在庫量を考慮しつつ当用買いをメインに。5月はある程度忙しいが6月以降が不透明。在庫は平均して持っているように心掛ける。

- ・夏伐丸太に不安があるため製材品仕入れは増加。消費及び在庫は大きな変化はない。
- ・増税の反動で、ヒノキ製品の需要減。
- ・
- ・
- ・

(受注動向) ・消費増税駆け込みの反動が中小ビルダーには、かなり響いている。

- ・受注は高水準で推移するが職人不足・資材不足による現場の遅れが心配される。
- ・受注回復の兆しが見え隠れ。
- ・
- ・
- ・